

大震災直後、屋内退避命令が出され、右往左往していた福島県南相馬市の若いママたちの相談に乗るべく、「ベテランママの会」はひよっこりと誕生しました。ほどなくして、東京大学医科学研究所の坪倉正治医師と知り合い、「放射能の正しい勉強会」を坪倉先生のご協力のもと始めました。これまでに南相馬や東京、名古屋などで四十五回以上、延べ千五百人以上が参加し、放射能と共存するための知識を得ています。

大震災から一年が経過した頃から、周囲を見回すと、うつっぽい症状の

東北復興日記

47



ラワーアレンジメントや足裏マッサージ、エステ、書道のほか、医師の先生方にご協力をいただき、健康講話なども行

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。



ゼミナール／ベテランママの会主宰
番場さち子さん

お母さんから元気に

人が目につくようになりというアメリカの女性としました。せっかく帰って知り合いました。アミアきた住民が、楽しく暮らさんの提案で、大船渡のせるためには何をしたら ニットカフェを見学にう良いかと提案していたとかがい、南相馬でも開設ころ、岩手県大船渡市でしました。

「支援の毛糸に触るだ

けで、あったかい気持ち

の思いからです。

になる」とか「住めなくなった家のことを一瞬でも忘れられる」とか、仮設住宅や借り上げ住宅で近隣の付き合いもままならない高齢者に、あつという間に広がりました。ラになり、孤独感と絶今まで二回、皆さんが製作した作品の展示即売会も行い、順調な活動を展開しています。写真。と、頭をひねり活動を続

ついています。家族が元気になるには、まずはお母さんが元気になろう！との思いからです。